

331) 時計

私は毎朝7時に起きることになっている。土曜日でも日曜日でもこれは変わらない。まだ独身時代のある水曜日の朝、目が覚めたので時計を見ると、ラッキーなことにちょうど7時でありました。ジャスト起床時間とばかり飛び起きて、簡単に朝食を済ませて、駅まで来ると、いつもよりも電車がずいぶんと空いている。これはまたラッキーなことだわいと座って会社まで来ると、いつも一番早く来る部長さんがまだお見えでない。おかしいなと思いつつ、時計を見ると、私の腕時計ではまだ7時半ではないか。おかしいこともあるもんだと思って、今朝の出来事を全てもう一度おさらいしてみると、私が見た時計は鏡に映ったものであることが判明いたしました。7時とばかり思っていたのは午前5時だったわけでありませう。トホホ…。その日は一日眠くて、結局午後は、部長殿には内緒で、応接室にこもって小一時間ナニをしたのであります。ところが私メが目を覚ますと、驚いたことに部長殿が私の向かい側のソファでコックリなのであります。なんで一みんなお昼値タイムがあったんだー。